

令和2年度 岩手県立宮古高等看護学院 学校運営評価

1 学校評価の目的

学院の学校運営、教育全般について評価を行い、組織的・継続的な改善を図る

2 学校評価の実施方法(評価者、評価時期)

- 1)教職員が評価表に基づき年度末までに評価を実施し、教員会議で協議する
- 2)1)の結果を教育運営会議で協議し最終評価とする

3 評価項目

学校運営に関する8項目の評価分類、40項目の評価項目について評価する

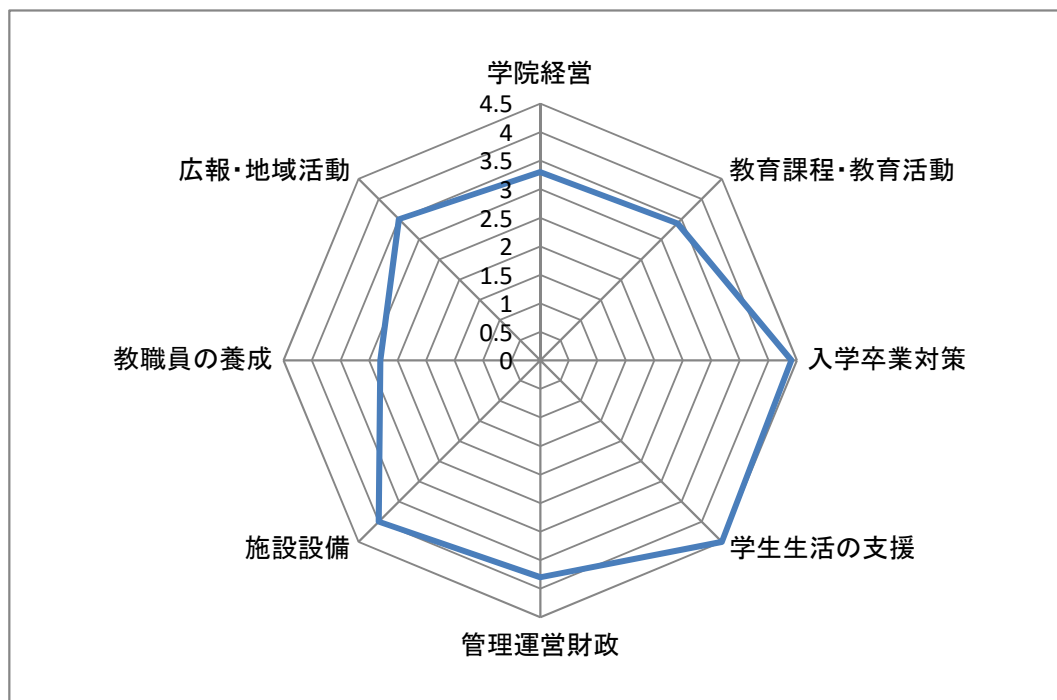
1	学院経営	5	管理運営財政
2	教育課程・教育活動	6	施設設備
3	入学卒業対策	7	教職員の養成
4	学生生活の支援	8	広報・地域活動

4 評価尺度

5:良い 4:やや良い 3:ふつう 2:やや不十分 1:不十分

5 評価結果

1	学院経営	3.3
2	教育課程・教育活動	3.4
3	入学卒業対策	4.4
4	学生生活の支援	4.5
5	管理運営財政	3.8
6	施設設備	4.0
7	教職員の養成	2.8
8	広報・地域活動	3.5



6 評価結果の分析

評価項目	現状	課題
学院運営	業務方針に基づいた主要課題(国試対策、学習習慣の確立、実習施設との連携、就職支援、自立心・社会性の育成)について、学年毎に年間目標、実行計画を立案し、実践した。入学時から卒業までの3年間を通して一貫した指導ができるよう、情報共有しながら取り組んだ。	国家試験対策の充実に向け継続して取り組む。学習方法については個人差も大きいため、必要な学生を選択し個別指導を行う。
教育課程 教育活動	学院の教育課程に沿って、各分野の多数の外部講師と調整を図りながら、学習内容や時間割を調整している。母性領域については県内大学と連携し講義を依頼したが、令和3年度より母性看護領域の経験がある教員を確保した。学生の主体的な学習を支援する手引きとして、シラバスを活用している。	令和4年度入学生より、新カリキュラム施行。社会の変化に応じた教育課程の見直しが必要であり、現行カリキュラムを評価して新カリキュラムを検討していく。
入学卒業 対策	平成28年度より定員増となったが、受験者数は横ばいである。学校公開の開催はコロナの感染拡大に伴い中止としたが、学生の出身高校へニュースレターやPRパンフレットを送付した。その他、県内進学セミナーへ参加し学院のPRを実施した。令和3年2月に実施された第110回看護師国家試験は30名全員合格であった。令和2年度卒業生の県内就職率は78%であり、依然として県内就職率が高い。	社会人入試も開始となったため学院の広報活動を企画し実践する。国家試験全員合格を継続できるように、学生の傾向に合わせて対策を講じる。
学生生活 の支援	全学年の担任・副担任が中心となり、定期的に面談を実施、就職・進学や学生生活における悩みなど個別に対応している。また、学生ヘインターンシップやオンラインでの就職ガイダンス等の情報を提供し、進路決定を支援している。その他、奨学金に関する情報提供や手続きなど担当者を中心に支援している。1回/月、カウンセリングを実施しており、希望する学生が受けられるよう調整している。	経済的、精神的側面から支援し、学業に専念できる環境づくりに今後も継続して取り組む。
管理運営 財政	年間の予算計画に基づき事業を執行、予算内で設備・備品を計画的に購入している。節電やリサイクル用紙使用など、可能な範囲で経費削減に努めている。災害発生時に教職員・学生が迅速に対応できるように、災害対応マニュアルを改定した。	卒業前に3年生に実施した、学院運営に対する学生の意見や要望から、改善が必要な事項について引き続き検討する。
施設設備	令和元年度より情報管理室のパソコンは一人1台使用できるよう整備された。Wi-Fi環境の整備を進めている他、体育館、図書室、多目的ホール、カンファレンス室、やテニスコートなどは、学生の学習やサークル活動に活用されている。看護技術などの演習で使用する備品・設備について、計画的に購入を検討し、学習環境の整備を図っている。	講義で活用できる視聴覚教材を整備する。
教職員の 養成	岩手県看護協会が主催するラダー別スキルアップ研修会に参加した。コロナ感染拡大によりオンラインで研修を受講する機会が増え、カリキュラム改正に関連した研修5回をオンラインで教員全員が受講し、研修終了後に全員で共有した。各教員が担当する授業・実習について自己評価し、講義で工夫している点や課題について全員で共有した。	教員間で学内授業の参観や授業公開を計画し、スキルアップに取り組む。研修参加後の伝達講習も継続する。
広報・地域 活動	毎年ホームページを更新、学校生活に関する情報を掲載している。自治会の委員会活動の一環としてSNSによる広報活動を開始した。学校公開は中止となったため、それに代わる広報活動を企画し学生の協力を得て実践した。コロナ感染拡大の影響により、地域施設からのボランティア要請が減少したことに伴い、地域貢献活動の機会が減少した。可能な時間に学校周辺の美化活動を実施した。	学校公開に代わる広報活動について検討する。地域への貢献活動については、地域の感染状況をみながら、可能な範囲で実施する。